

山口県立看護学校あり方検討報告書【概要】

第1 看護教育を取り巻く現状

1 看護職員の養成

(1) 医療ニーズ.....患者本位の質の高い医療サービスの実現

⇒ 看護職員の役割は複雑・多様化

(2) 養成施設による養成.....多様な養成課程、少子化社会の進展

⇒ 看護職員養成施設の学生の確保は困難になる

(3) 国の動向.....学生の高学歴志向を踏まえて看護師の課程の整備を図る

2 看護師等志望生徒の進学状況

志願者数・入学者数...大学(看護学部)は増加傾向、専修学校(看護学科)は減少傾向

⇒ 看護職員志望生徒は高学歴志向

3 県内の看護職員養成施設

施設数... 23校(H21.4.1現在)、専修学校3校で看護学科の開設等を予定(H22.4月)

⇒ 看護職員養成数は増加

4 看護職員需給見通し

平成20年12月試算 (需要) - (供給)... [H21] 416人 [H25] 85人

⇒ 需給バランスは改善傾向

5 看護職員の確保対策

県立看護学校の設置及び県内定着対策、離職防止対策、再就業支援対策を実施

第2 県立看護学校の状況

| 区分 | 学科名 | 入学者等 | 卒業生 |
|--------|--------|--|---|
| 衛生看護学院 | 保健学科 | 受験者数の減少が顕著 平成21年度は定員割れ | 半数が看護師として就業 県外出身者は地元に戻って就業 |
| | 助産学科 | 県外受験者数が増加 平成21年度は定員割れ | 県内就業者数は卒業生数の6割以下 県外出身者は地元に戻って就業 |
| | 第一看護学科 | 受験者数は減少傾向 合格後の入学辞退者が多い 平成21年度は定員割れ | 県内就業者数は卒業生数の6割以下(近年は増加) 卒業生数の2割以上が進学 |
| | 第二看護学科 | 受験者数は増減している 平成21年度は定員割れ | 県内就業者数は卒業生数の6割以下 卒業生数の2割以上が県外就業 |
| 萩看護学校 | 第一看護学科 | 受験者数は減少傾向 合格後の入学辞退者が多い | 卒業生の約半数が県内に就業 北浦地域への就業者数は低調 |
| | 第二看護学科 | 受験者数は減少傾向 北浦地域からの入学者数は全体の6割以上 | 卒業生の8割以上が県内に就業 北浦地域への就業者数は卒業生数の5割以上 |

第3 今後の県立看護学校のあり方

1 衛生看護学院

(1) 学科別検討

| | | |
|-----------|---|--|
| 保健学科... | 大学志向により学生の確保は困難となる 県内保健師の養成につながらない 他の養成施設により保健師養成数は増加 | |
| 助産学科... | | 県内の助産師の養成につながらない 他の養成施設の助産師養成数の増加は可能 助産師確保に向けて施策の充実を図る |
| 第一看護学科... | | |
| 第二看護学科... | | |

県立施設として
存続する必要性
は低い

(2) 学院のあり方

平成22年度入学生を最終学年とし、各学科をその学年進行により、順次閉科した後、平成24年度末に廃止する。

| 学 科 名 | H 2 2 | H 2 3 | H 2 4 |
|---------|-------|-------|-------|
| 保 健 学 科 | → | | |
| 助 産 学 科 | → | | |
| 第一看護学科 | | | → |
| 第二看護学科 | | → | |

2 萩看護学校

(1) 検討及び学校のあり方

北浦地域の看護師養成施設は萩看護学校のみである
 同地域では看護師の養成及び定着が今後も必要
 第一看護学科卒業生の同地域への就業者数は多くない
 第二看護学科卒業生の半数以上は北浦地域に就業

存続して、北浦地
域の看護師の養成
確保に努める

(2) 管理・運営上の留意事項

学生の確保、 北浦地域への就業の促進、 教育内容の向上
 教員の資質向上、 学校施設の維持管理、 学生生活の充実等

3 県立病院の運営形態の見直しへの対応

県立看護学校は病院実習などで県立病院と深い関わりを持って運営している。

現在、県立病院に関しては運営形態の見直しが行われているが、今後とも県立看護学校において、教員確保、講義・実習の実施等に支障が生じないように努め、看護教育の維持・充実を図る。